



登録医療機関ご紹介

山田医院

婦人科・女性検診（子宮がん・乳がん・骨粗しょう症）

幸せを運ぶ
家族みんなの
クリニック

院長：山田 桂子

症状に合わせた
漢方治療も
行っております。

当院は、婦人科全般をホームドクター的に診察を行う医療機関です。思春期から老年期までの女性の一生をサポートできるようにしたいと思っています。婦人科では女性ならではの疾患の他、ブライダルチェック・子宮がん検診・乳がん検診やピル処方も行っております。その他、生活習慣病や冷え性、便秘などの体質改善についてもご相談ください。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00-12:00	●	●	●	×	●	●	×
16:30-19:00	●	●	●	×	●	▲	×

▲第2・4土曜日13：00～15：00は健診のみの診療となります。

注）午前受付終了時間 11:45まで 午後受付終了時間 18:45までとなります。（完全予約制）

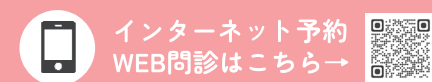
【休診日】木曜日・第1・3・5土曜日午後・日曜日・祝日

※臨時休診日が年に1～2回ございますので、初診の方は予め電話で御確認の上受診をお願いいたします。

〒462-0026 愛知県名古屋市北区萩野通2丁目10番地2 TEL：052-981-2033



明るい院内、パウダールームも完備しております。



インターネット予約
WEB問診はこちら→



中央放射線部よりPET検査一時休止のお知らせ

平素より当院の運営に格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
この度、PET-CT装置の老朽化に伴い、装置の更新を行うこととなりました。誠に勝手ながら、下記の期間中、PET-CT検査を一時休止させていただきます。

休止期間：令和7年12月10日（水）～令和8年1月26日（月）

日頃から当院をご利用いただいている皆様には、大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

新しいPET-CT装置には、「高分解能・高感度」での撮影を可能にする最新技術が搭載され、より精度の高い検査をご提供できる体制を整えてまいります。

今後とも、引き続き当院をご利用いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



※西部医療センターへの電話かけ間違いにより、一般の方へご迷惑をお掛けする事象が発生しております。ご連絡の際は、電話番号をよくお確かめのうえ、お掛け間違いのないようお願い申し上げます。



名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

〒462-8508 名古屋市北区平手町1丁目1番地の1

TEL：052-991-8121（代表）

▼ 地域医療連携センター直通（診療予約専用）

TEL：052-991-8145

FAX：052-856-0049

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/seibu/>



西部医療センター地域医療連携 NEWS 2025年11月号
〈編集担当〉地域医療連携センター 佐藤紫帆 浅井瑞葉

名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 地域医療連携 NEWS

2025 11月号

◆目次◆

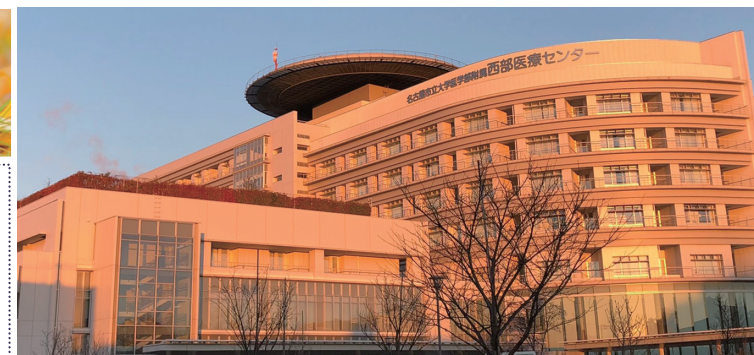
こどもアレルギーセンター開設特集 1・2・3

登録医療機関ご紹介《山田医院》 4

中央放射線部より《PET検査一時休止のお知らせ》 4

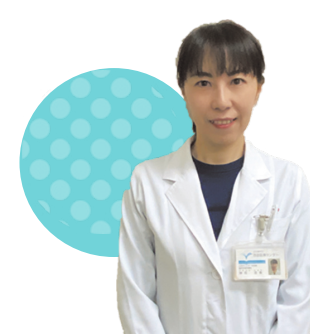
《基本理念》

地域に根差した大学病院として、
高度かつ安心な医療を提供するとともに
優れた医療人を育成します。



こどもアレルギーセンター開設

この度、12月から「こどもアレルギーセンター」を開設させていただきます。近年増加するアトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎などに対し、小児科・皮膚科・耳鼻科・眼科等が連携し、正確な診断と適切な治療を行います。特に、アレルギーマーチの予防を重視し、乳幼児期早期からの介入に努めます。産婦人科とも連携し、妊婦さんへの情報提供、相談支援を行い、出生後のスムーズな母子支援により、アレルギー発症の低減に努めます。看護師、薬剤師、栄養士、助産師など多職種も加わることで、こどもとご家族が安心して過ごせる環境づくり、アレルギーに悩まない子育ての実現を目指します。地域の先生方との連携を大切にし、切れ目のない医療を提供してまいりますので、今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



こどもアレルギーセンター長
小児アレルギー科部長
准教授（診療担当）
かみおか なおみ

神岡 直美



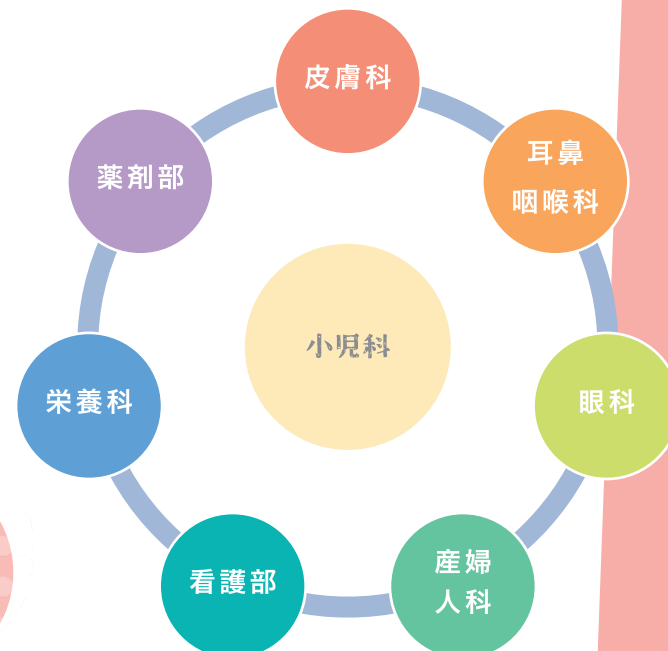
皮膚科部長
教授
にしだ えみ

西田 絵美



耳鼻咽喉科副部長
講師（診療担当）
たかの がく

高野 学



小児科を中心に皮膚科・耳鼻科・眼科・産婦人科・看護師、薬剤師、栄養士が連携し、さまざまなアレルギー発症の低減、予防、悪化防止に努めます。

アレルギー性結膜炎

アレルギー性結膜炎はこどもにも多い病気で、かゆみや充血により勉強や遊びに集中できないなど、生活の質に影響します。以前は春季カタルという重症型が小児男子を中心にみられ、角膜障害や視力低下をきたすことが問題でした。現在は抗アレルギー薬に加え、免疫の働きを調整する点眼治療が導入され、重症例は全国的に減少傾向です。しかし軽症のアレルギー性結膜炎は依然多く、長引く症状に悩むお子さんも少なくありません。またアトピー性皮膚炎を持つこどもでは、アトピー性角結膜炎を合併し、将来白内障や網膜剥離の危険が高まることも知られています。小児期からの適切な眼科的管理が、視力を守るうえでとても大切です。

アレルギー性結膜炎

学童期

アレルギー性鼻炎



幼児期

喘息



乳児期

食物アレルギー



0歳

アトピー性皮膚炎



環境要因

出生前

アレルギー体質
(遺伝要因)

アレルギー性鼻炎

アレルギー性鼻炎はこどもにおいても増加しており、発症も若年化しています。鼻汁や鼻閉により鼻呼吸が妨げられると、睡眠や勉強など日常生活にも影響します。治療としては抗アレルギー薬などの薬物療法が第一選択となりますが、近年は根治を目指すアレルゲン免疫療法もこどもに適応となっています。こどもアレルギーセンターでは各科や近隣クリニックの先生方と連携し、アレルギー性鼻炎の診療に取り組んでいきます。

気管支喘息

こどもの気管支喘息は、ガイドラインの普及と吸入ステロイドや配合薬の使用により、コントロール率が改善してきています。しかし、感染に伴った急な発作で、緊急入院するお子さんは、幼児を中心に、まだまだ減ってはいません。当院では、幼児でも実施可能な呼吸抵抗検査Impulse Oscillometry System (IOS) や、呼気NO検査、スパイロメトリーなどを実施し、正確な診断、コントロール向上を目指しています。

食物アレルギー

こどもの食物アレルギーの代表は、鶏卵・牛乳・小麦ですが、最近ではクルミ・カシューナッツ等のナッツ類のアレルギーや、花粉症に関連する口腔アレルギー症候群が増加しています。当院では、食物経口負荷試験を実施し、少量でも食べられる範囲を見定めて、安全に摂取を続けられるよう継続的に支援を行っています。食物経口負荷試験は、原則、日帰りまたは1泊入院で実施しております。

栄養科

食物アレルギーで食べられない食物があると、栄養の偏りも気になると思います。適切な除去とともに、必要な栄養が摂れるよう栄養相談を行っています。

産婦人科部門

産婦人科部門では、母親教室で情報提供を行い、妊娠期からアレルギー予防について考える機会を提供します。さらに、肌が薄く脆弱である新生児の肌を守るためにスキンケアを実践し、ご家族への指導も行います。これらの取り組みを通じて、将来のアレルギーマーチ予防に努め、こどもの健やかな成長を支えていきたいと考えています。

看護部

当院ではアレルギーをもつお子さんとご家族が、安心して日常生活が送れるよう支援を行っています。アレルギーをもつお子さんのお肌は乾燥しやすいため、清潔と保湿によってバリア機能が回復・維持できるような指導を行っています。また、アナフィラキシーのときに迷わず対応できるように、エピペン指導も行っています。これらの取り組みを通じて、お子さんの健やかな成長を支えていくことを大切にしていきます。

薬剤科

効果的に治療を行うには、薬を正しく使うことが大切です。お子さんに合わせた薬の飲み方、吸入のしかた等をご家族と一緒に考え、安心して治療に臨めるよう寄り添います。

アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎は、よく知られている疾患で、かゆみを伴う湿疹が繰り返し出現する慢性的な皮膚の病気です。こどもにも多くみられ、乾燥肌やアレルギー体質と関係があります。皮膚に炎症があると、かゆみによる睡眠障害や集中力の低下など、生活の質にも影響を及ぼします。また食物アレルギーや気管支喘息、アレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患発症のきっかけとなることも知られており、適切なスキンケアと薬物治療（外用薬、内服薬、注射剤）を組み合わせることで、症状をコントロールし、健やかな成長を支えることが可能です。

花粉症



名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 歯科口腔外科 NEWS

2025
11



01

greeting

厳しい暑さも幾分和らぎ、少しずつ過ごしやすい季節となつてまいりました。登録医の先生方におかれましては、お健やかに過ごしのことと拝察申し上げます。平素より当院歯科口腔外科の診療に対し、多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今後とも地域医療の一翼を担うべく、スタッフ一同専心努力してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、このたび当科では、令和7年9月30日をもって **堤 康輔 歯科医師** が退職し、10月より新たに **鈴木 貴大 歯科医師** を迎えることとなりました。



堤 康輔

このたび令和7年9月30日をもって退職いたしました。約2年半の在職期間中、西部医療センターにて口腔外科診療を通じ、幅広い症例を経験し多くを学ばせていただきました。地域の先生方には、日頃より温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。今後はこれまでの経験を活かし、引き続き地域医療に貢献してまいります。末筆ながら、皆様のご健勝と地域医療のさらなる発展をお祈り申し上げます。



鈴木 貴大

10月より歯科口腔外科に着任いたしました、鈴木貴大と申します。愛知県出身で、愛知学院大学歯学部を卒業後、名古屋市立大学病院歯科口腔外科および愛知県がんセンター麻酔部に勤務しておりました。これまでの経験を活かし、地域の皆様の口腔健康の維持・向上に尽力してまいります。患者さん一人ひとりに寄り添った丁寧な診療を心がけてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

02

seminar

第18回

周術期口腔機能管理セミナー

- 日時：令和7年12月4日（木）18:00～19:00
- 会場：名古屋市立大学医学部附属病院 西部医療センター 2階 大ホール（現地開催＋WEB配信）
- 講演：「緩和ケアのアプローチ～患者さんのQOL向上を目指して～」
- 講師：名古屋市立大学医学部附属病院 西部医療センター 緩和ケアセンター長／精神科・児童精神科部長 **奥山 徹 先生**



松山 楓

向坂 友里



谷口 弘樹